

学 位 論 文 要 旨	
氏 名	アイマン カミス イルサイド
題 目	タマバエ科ハリオタマバエ族の分類学および生態学的研究 (Taxonomic and ecological studies on gall midges (Diptera: Cecidomyiidae) belonging to the tribe Asphondyliini.)
<p>ハエ目タマバエ科ハリオタマバエ族は、形態的に明瞭に区別される単系統群で既知種 500 種以上を含んでおり、すべての種が虫えい（虫こぶ，ゴール）形成性である。本研究では、本族の体系学的，系統学的，及び生態学的研究を実施した。まず，タマバエ科においてこれまで形態的特徴の研究がなされていなかった蛹の胸部背面の構造に着目し，本族タマバエ類を対象として感覚毛の配置や数を調査した結果，属内レベルあるいは種レベルで明瞭に異なることを明らかにした。したがって，蛹の胸部背面の形質は，属および種の識別形質として有効であることが示唆された。</p> <p>次に，本族の中で分類学的研究が特に遅れていたニセハリオタマバエ亜族の形態を比較した結果，北米や日本でブドウ属を加害し，これまで <i>Schizomyia</i> 属とされていたタマバエ類が，未記載属であることが明らかになったため，日本産の未記載種の新種記載と合わせ，北米産の属の所属を変更した。さらに，ニセハリオタマバエ亜族の中で最も多くの種が知られている <i>Asteralobia</i> 属と <i>Schizomyia</i> 属の形態を比較した結果，前者を特徴付けるとされていた成虫触角の形態的特徴は，独立属と判断するには不明瞭であることが明らかになったため，前者を后者の同物異名であると判断した。また，分子系統解析により，ニセハリオタマバエ亜族の系統関係を解明し，様々な生態特性の進化過程を考察した。</p> <p>さらに，ボロボロノキを寄主とし，芽に虫えいを形成するハリオタマバエ亜族の未記載種を確認し，<i>Asphondylia tojoi</i> として新種記載した。また，その生活史を解明し，同一寄主の同一部位に虫えい利用するヒメコバチ科の一種 <i>Ceratoneura</i> sp. との関係について明らかにした。両種は共に年多化性であるが，形成する虫えいのサイズが有意に異なること，および，<i>Asphondylia tojoi</i> は虫えい内で一齢幼虫として越冬するのに対し，<i>Ceratoneura</i> sp. は冬の間，寄主芽内で虫えいおよび幼虫の生息が確認されなかったため，虫えい外で成虫として越冬している可能性が高いと考えられた。</p>	